

人吉高等学校五木分校 平成 26 年度学校評価表

1 学校教育目標
<p>ア 本校の綱領「礼節」「勤労」「進取」の精神を念頭に、全職員一体となって愛情と信頼を基調とした教育を実践し、心豊かで調和のとれた、社会に貢献できる人間の育成を図る。</p> <p>イ 豊かな自然環境の中で、豊かな人間性と健康な体を育み、自信と誇りをもった澁刺とした生徒の育成を図る。</p> <p>ウ 小規模校としての特長を最大限に生かし、生徒一人一人の個性を伸ばすとともに、特色ある学校づくりを実践する。</p>

2 本年度の重点目標
<p>教育スローガン「一人一人が輝く分校生！」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 基礎学力の充実 2 生徒指導の充実 3 進路指導の充実 4 多様な生徒への対応 5 地域に根ざした特色ある取組の推進

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	信頼される学校づくり	広報活動の充実	分校ニュースを職員が輪番で担当して年11回発行し、学校行事等での生徒の頑張りを情報発信する。ホームページを毎月更新し内容を充実させる。	毎月分校ニュースを保護者、地域機関、出身中及び学校評議員に配付し、ホームページに掲載する。新ホームページへの完全切り替えを年度末までに完了する。	B	分校ニュースの作成時期を昨年より早くし、期限内に関係機関に配布することができた。ホームページに分校ニュースを配信したが、ホームページ全体の切り替えはまだ十分ではない。
		ボランティア活動の充実	学期に1～2回、年5回、全校生徒・職員で地域貢献のための環境美化活動を行う。	定期考査最終日及び夏休みに、五木分校周辺の公共の場所の清掃・美化活動を行う。	A	目標である環境美化作業を実施することができた。地域貢献のためのボランティア活動を今後も継続する。
		五木秀麗会との連携強化	秀麗会総会・報告会の出席率100%を目指す。保護者との良好な協力関係を構築する。	全保護者の協力による秀麗会活動の充実を図る。担任と保護者間で密な連絡、相談等を行い、良好な協力関係を保つ。	A	秀麗会総会・報告会の出席率100%は達成できた。運動会の準備片付けや長距離走大会の炊き出しにほとんどの保護者が参加した。
	地域に密着した教育活動の充実	五木小・五木中との合同事業の充実	当番校として第2回保・小・中・高合同大運動会の円滑な運営を行う。中・高交流、合同行事を充実させる。	五木村保育所・小学校・中学校との密接な連絡体制と連携を図る。救急講習、防災教育等の中学校との合同開催を実施する。	A	合同大運動会当番校として役割を果たすことができた。救急法講習や防災教育等の中高合同開催で、交流を深め、進行等の役割を担うことで生徒の自主性の育成に繋がった。
	地域中学校との連携強化及び入学生徒数の確保	毎月1回担当職員が中学校を訪問する。平成27年度入学人数を10名に近づける。	各中学校を分担して職員が担当し、連絡体制を強化する。学校説明会や体験入学を充実させる。	B	職員が毎月中学校を訪問し、体験入学の参加者が前年度より増加した。ICTを効果的に活用して、効果的にアピールすることができた。	

		五木村関係機関や団体との連携と行事等への協力	年10週のあいさつ運動を実施する。 交通安全運動等の五木村行事へ参加し、分校でしか体験できない教育活動を展開する。	五木村で行われる交通安全運動、各種祭、駅伝大会等に生徒会を中心に積極的に参加する。地域との良好な協力関係を構築する。	B	生徒会によるあいさつ運動は毎月自主的に実施することができた。交通安全運動、駅伝大会、福祉祭に参加したが、交通安全運動は年2回のタッチ運動以外にも、地域と協力して行なう取組ができるとよい。
学力向上	基礎学力の定着	学校設定科目「ステップアップ」の充実	生徒間の競争意識の高揚を図り、全員が6段階以上の昇級を目指す。	全学年を3段階の習熟度別グループに分けてTTによるきめの細かい指導を行う。	B	意欲的に取組む生徒が多く、基礎学力の定着に有効であった。新たな段階を設けるなど、学力の高い生徒への対応もできた。一方で、6段階以上の昇級ができない生徒もいた。
	授業の充実	わかる授業の構築 授業時間の確保 研究授業の実施と研究会・研修会への参加	生徒の学力に応じた授業の工夫と調査前学習会を行う。 授業の自習をゼロにする。 各教科の職員が必ず年1回以上研究授業を実施する。	各定期考査前に学習会を実施する。 出張時の授業変更を確実に行う。 研究授業後の合評会の充実を図る。 各種研修会へ積極的に参加する。	B	各定期考査前に学習会を行い、充実した個別指導ができた。自習もゼロであった。全職員が研究授業を実施したが、各教科の担当が原則1人であるため、教科指導力向上のために校外での研修の機会が必要である。
キャリア教育	キャリア教育の充実	「総合的な学習の時間」における系統的な進路学習と体験学習の充実	外部講師による進路学習を積極的に取り入れる。 自然体験学習を充実させ、社会生活に必要なコミュニケーション能力、思考力、創造力を身につけさせる。	進学、就職への講話や、社会生活に向けた学習を行う。 体験学習では学校全体で取り組み、生徒が主体性を持って取り組むような工夫を行う。	A	外部講師による適性検査や面接の受け方、社会生活に向けての心構え等の講話を行った。体験学習でも、生徒一人一人が意欲的に取り組むことができた。
	個に応じた進路指導	各自の進路希望に応じた個別指導の実施	進路希望の100%達成を目指す。	個別面談を適宜実施し、個に応じた課外や面接指導を行う。関係諸機関との連携を図りながら個別指導と対応を充実させる。	A	全職員で協力して、個に応じた課外指導や面接指導を行った。また関係機関と協力して希望に応じた職場開拓をし、目標を達成した。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚	基本的な生活習慣の確立	自らの力で生活態度を向上させる態度を養う。	学習・生活の記録を毎日提出させる。 保護者と連絡を密に行う。	B	学習・生活の記録を、全員に提出させることはできなかった。 欠席や遅刻の生徒の保護者との連絡は、迅速に、密に行うことができた。
		規範意識の高揚	生徒会行事や学級活動等での団体行動や月例集会講話を通して規律ある行動ができるような集団をつくる。 問題行動、トラブル等を未然に防止する態度を養う。	交通安全、整容や言葉遣い、マナー等の向上に取り組む。 アンケート調査、生徒の日常観察等により、全職員で生徒の状況を把握し、トラブル等の未然防止に努める。	A	団体活動の中で啓発を行うことができた。 服装等で軽微な違反はあったが、個別に指導することで規範意識を喚起することができた。 問題行動等はなく、特別指導0件を達成することができた。

	生徒の主体的活動の充実	生徒会活動の充実と部活動の活性化	全生徒が生徒会活動に参加する。部活動への加入率を100%とする。	全生徒が、生徒会の係を分担し活動を行う。生徒会による生徒総会、月例集会の運営を充実させる。部活動で、各種競技会等への積極的な参加を行う。	B	1・2年生による生徒会執行部ではあるが、意欲的に活動することができた。月例集会で部活動報告を行うことを新たに生徒会が実施し、部活動の活性化を狙ったが、思ったほどの効果を得ることはできなかった。
人権教育の推進	個々の生徒に応じた適切な指導	生徒一人一人の状況把握と柔軟な対応	各学期1回以上、職員研修（生徒理解、特別支援等）を実施する。毎週の運営委員会で生徒の状況報告と実態把握を行う。	外部の専門家との連携を密にし、積極的な活用を図る。生徒理解のための資料を作成し、全職員が生徒個々の特性と現在の状況を理解して指導に当たる。	A	毎学期、生徒理解研修会を実施し、運営委員会で状況報告を行うことで、職員の共通理解と授業への手立てを検討し指導することができた。
		生徒と教職員、生徒同士の望ましい人間関係の構築	3年間を見通した人権教育LHRを計画的に実施する。各行事を通して、自尊感情の定着とともにお互いを認め合うことができる生徒を育成する。	学年毎にテーマを設定してわかりやすい授業を行う。学校行事では、生徒全員がお互いに協力してつくりあげる取組を重視して計画させる。職員も参加して支援する。	A	ボランティア活動や1・2年合同修学旅行、合同運動会など、全学年や異校種との交流活動の場を設定し、各所で互いを思いやり協同する姿が多く見られた。
	「命を大切にできる心」を育む指導の充実	命を大切に、他を思いやる態度の育成	指導プログラムを作成し、各学期「命を大切にできる心」を育む授業やLHRを実施する。月例集会講話等で思いやる心や強い心を醸成する。	各教科科目の授業で「命を大切にできる心」についての授業を行い、職員も参観する。LHR、総合的な学習の時間や月例集会等を活用し、日頃から、「思いやる心」について触れた講話等を行う。	B	全職員が命を大切にできる心を育む授業を行った。定例の月例集会は計画通り実施することができた。各種委員会からの目標と取組で生徒自らが発信する自主的な実践を促していく。
いじめの防止等	いじめ防止基本方針の着実な推進	いじめを許さない心を育む指導の充実	いじめ発生「0」を目指す。いじめにつながる学校全体の雰囲気を作る。	全体指導と個別面談等を行い、いじめの未然防止に努める。月例集会で生活態度等について注意を喚起する。	A B	アンケートの回答で、いじめ「0」であった。コミュニケーションが不得手な生徒の悩み等にも迅速に対処し解消することができた。
		生徒の状況把握と迅速な指導体制の構築	相談窓口の周知を行う。日頃の生徒間の行動観察と情報共有を図る。年3回の心のアンケートを実施する。外部の専門家を活用したいじめ問題対策委員会を毎学期、年3回実施する。いじめ防止基本方針を職員に周知する。	相談窓口は、合格者説明会・入学式・1学期始業式・五木秀麗会総会で生徒保護者に周知する。生徒相談係、担任の日常観察及び運営委員会報告等により、全職員が生徒の変化を把握した上で適宜対処する。いじめ防止に関する職員研修を行う。		日々の生活ノートや健康観察を通じて、生徒の変化の早期発見に努め全職員で個々の事例に対応し解決できた。心のアンケート結果を全職員が周知し、生徒一人ひとりの状況・心情に応じた対応ができた。外部の専門家を交えたいじめ問題対策委員会並びに職員研修を実施し職員の意識向上に努めた。

職員研修	職員の資質の向上	職場での不祥事の根絶と職員の意識の高揚	分校職員の不祥事「0」を目指す。職員朝会で適宜職員としての規範意識の高揚を図る。毎学期、不祥事根絶のための校内研修を実施する。	毎日の職員朝会要項に不祥事0の継続日数を表示する。職員朝会で適宜不祥事の事例を紹介し、注意を喚起する。	A	昨年度から不祥事「0」を継続できている。校内研修を7回実施した。日常的に不祥事防止の注意喚起を職員が相互に行うなど、高い意識を維持することができている。
------	----------	---------------------	---	---	---	--

<h4>4 学校関係者評価</h4>
<p>1 学校評価表（自己評価）の内容や評価について</p> <p>(1) 学校教育目標について</p> <ul style="list-style-type: none"> 適切である。 全日制・定時制・五木分校の全校一体となった基本目標を掲げて全校の整合性を保った上で、五木分校特有の内容を付加されており、分校らしいすぐれた内容になっている。 人吉高等学校五木分校として、地域性を生かした特色あるすばらしい教育目標になっている。 教育目標の保護者への浸透が感じられる。保護者の協力体制の充実にも表れている。 <p>(2) 学校評価の内容や方法について</p> <ul style="list-style-type: none"> 適切である。 充実した学校評価アンケート内容で、細やかな所までの意見が記載されてとても分かりやすく、また、小規模校を考え、アンケートの数値だけでなく、生徒達の小さな取組にも課題・対応を考えてあり、素晴らしい内容となっている。 分校にふさわしい評価アンケート項目が目立ち、その内容や方法は適切である。職員の評価項目が多いことについては、その評価を上げるべく多方面にわたった日々の努力目標が立ち、取組が充実されるという好結果に繋がると思われる。 保護者へのアンケート項目は15である。教職員は30項目である。保護者と教職員の意識を比較することも大切ではないかと考える。 <p>(3) 学校評価の結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> 適切である。 的確な自己評価ができている。目標達成する為にも保護者への周知徹底は必要ではないかと思う。 職員の評価アンケート結果は昨年を引き続き高いのは、職員一同の共有意識の表れである。他方、生徒については「お互いを高め合う雰囲気」が低調なのは気になる。また、少人数での部活動のあり方の再検討も必要かもしれない。 結果の取り扱いについて、どのような取り扱いをされるのか、資料から読み取れなかった。 <p>2 教育活動その他の学校改善に向けた取組について</p> <p>(1) 学校経営について</p> <ul style="list-style-type: none"> 適切である。 地域密着で広報活動も頑張っている事がよくわかる。広報活動として、保護者による他の人への伝達も重要な広報活動になるのではないか。 分校ニュースを届けていただき、学校経営の充実がよくわかる。分校ニュースの継続を望む。楽しみにしている。 まずは、入学者の増加が課題、そして、いかにして地域との密着・連携していくか、それらを踏まえて経営されていることがよくわかる。保・小・中・高との合同運動会等は分校の存在をアピールし、入学予備軍になるかもしれない。 会議で、五木分校の保護者が、「子供2人を分校にやった。下の子も分校に行かせたい。先生達もよくやっていただいている。」と言われたのが印象的であった。 今年の五木分校の取組で最も心に残ったのは、修学旅行である。計画から生徒が自分たちで考え、公共交通機関を使い、上級生と下級生が助けあい、感想文を見ても成長の様子が実感できた。このような指導をされた先生方に心より敬意を表する。 <p>(2) 学力向上について</p> <ul style="list-style-type: none"> 適切である。 授業アンケートより、授業に積極的に取組む生徒と授業改善（わかりやすい授業）をされている教員の姿を読み取ることができた。

- ・ 基礎学力の定着はすべての生徒に必要な事なので、継続的に頑張ってもらいたい。
- ・ 特にステップアップを系統的に取り組んでいることが、基礎学力の定着に有効である。ただ、職員と生徒の評価の差についての原因究明が必要であろう。なお、各教科担当が一人であるため、教科指導力向上のための外部研修の必要性を指摘しておられる。
- ・ 日本でトップクラスの個別指導ができる環境だと思う。ぜひ大学進学まで繋げて欲しい。

(3) キャリア教育について

- ・ 適切である。
- ・ 生徒各自の進路に応じ、個別指導が充実する事は素晴らしい事である。また、社会生活に向けた学習・心構えができる事は、子供達にとって自信に繋がる。
- ・ 特に、基礎的・汎用的能力の育成を望む。
- ・ キャリア教育の充実と個に応じた指導に力を注いでおられる。外部講師の導入、自然体験学習の関係機関との連携等により、成果があったようである。ただ、生徒において進路に関する資料の提供についての評価が低いので改善の必要がある。

(4) 生徒指導について

- ・ 適切である。
- ・ 基本的な生活習慣は、今後社会の一員となる為にも一番大切な事だと思う。家庭での取組が大切なので、保護者との連絡の取り方など具体化して取り組んでみてはどうか。
- ・ 小集団から大集団での生活を想定して、規範意識の向上が望まれる。
- ・ 種々工夫がなされ、職員の評価は高いが、部活動や生徒会活動について生徒保護者の評価が低いので、少人数に適した活動のあり方の工夫が必要であろう。

(5) 人権教育の推進について

- ・ 適切である。
- ・ 小規模校の特色を生かし、生徒一人一人に対応できている。今後も一人一人に心配り・気配りをお願いしたい。
- ・ 保護者・生徒に若干の懸念はあるが、総じて高い評価となっている。適切な指導内容になっていると評価できる。

(6) いじめの防止等について

- ・ 適切である。
- ・ アンケートでいじめ「0」は、申し分ない。
- ・ いじめ「0」が継続する取組を望む。
- ・ いじめに関しては皆が敏感な事である。それぞれに受け取り方も違うので、数値にとらわれず、皆の協力体制ができている事は素晴らしい。
- ・ 三者共に高い評価ですが、生徒の中に評価できない生徒もいるようである。このことは、表面には出ないがいわゆる隠れいじめがある可能性もあるかもしれないので、十分注意して見て行く必要がありそうである。

(7) 職員研修について

- ・ 適切である。
- ・ 先生方一人一人職員の資質向上に頑張っていると思う。今後も、先生方の心のケアも研修の一つではないか。
- ・ 情報を共有する研修や指導方法の工夫・改善のための研修もお願いしたい。
- ・ 研修の成果が表れているようである。更に教科指導力の研修もされては如何かと思う。

3 その他

- ・ アンケート分析資料は、カラー・色分けでとても見やすく、分析的確である。
- ・ スローガンである「一人一人が輝く分校生」の実現を目指してがんばっているのが良いと思う。地域と密接にかかわり事が多いので、社会の面でも多岐にわたって勉強できると思った。
- ・ 小集団のために発生する課題もあると思う。一人一人を大切に教育の充実をお願いしたい。
- ・ 以前、中学校校までの不登校児が、五木分校に救いを求めて入学し、3年間皆勤の上、大学に進学した生徒がいた。分校には、それらを育てる「何か」があると思う。その「何か」、先生方の懸命な取組に、心から敬意を表す。
- ・ ある意味、五木分校と定時制はライバルであるようである。実業界からの立場で見ると、良い意味での競い合いこそ、お互いを成長させ、地域に貢献し、企業を存続させる源であると思う。これまでのような教育レベルでの競い合いをぜひこれからも続けて欲しい。

5 総合評価

1 本年度の学校教育目標

アの目標は、本校綱領「礼節」「勤労」「進取」を基盤とした人吉高校としての目標（本校全日制・定時制・分校共通）であり、適切であった。

イ及びウの目標は、五木分校の特性に応じた目標であり、分校全職員が共通認識を持って取り組むことで、地域に根ざし、小規模校ならではの生徒一人一人に応じた教育の実践を図ることができた。

2 本年度重点目標

教育スローガン「一人一人が輝く分校生！」を掲げ、生徒一人一人に応じた適切な指導を行い、教師が生徒を認め励ましながら一緒に取り組むことで、生徒が日々の教育活動で活躍する場面を作りだし、自己肯定感や自信に繋がる教育を実践することができた。教師と生徒、保護者との信頼関係のうえに教育活動を展開できる、よいスローガンであったと思う。

「1 基礎学力の充実」では、わかる授業の構築に努め、基礎学力向上のための学校設定科目「ステップアップ」を充実させ、課題等の工夫改善と生徒の家庭学習の習慣化を図った。また、定期考査前学習会の実施や個別指導の充実で、生徒一人一人への丁寧な学習指導を充実させることができた。なお、今年はステップアップ昇級のペースが速く一部の科目で1級を超える生徒が数名いたので新たな段を設定して対応した。今後は、国数英の段のレベル設定と学習教材の早急な整備が課題である。

「2 生徒指導の充実」では、保護者との協力の下、生徒の基本的な生活習慣の確立を図り、落ち着いた学校生活に繋げることができた。毎月の月例集会講話、「命を大切に作る心」を育む指導プログラムとしての各教科による授業、携帯電話の使用ルールづくり等を通して、規範意識の向上と他を思いやる態度を育むことができた。

「3 進路指導の充実」では、キャリア教育の一環として、本年度はジョブカフェやハローワーク等の外部機関との連携により、アサーション講座やキャリアカウンセラーによる面接練習を導入し、生徒のコミュニケーション能力の向上を図ることができた。また、昨年度に引き続き「体験学習」を充実させることにより、達成感や自己成就感を味合わせ、生きる力を育み、自己肯定感に繋げることができたと思われる。個別進路対策では、全職員による指導体制を充実させることができた。国公立大学進学指導へ向けた低学年からの個別学習指導の拡充が今後の課題である。

「4 多様な生徒への対応」では、毎朝の健康観察で生徒の心身の状態を把握すると共に、毎週の運営委員会での生徒一人一人について取り上げ、全職員の共通理解を図ることで、生徒に応じた組織的で迅速な対応を行うことができた。また、専門機関の協力を得て、生徒理解研修や支援会議を毎学期開催して適切な助言をいただき、指導に役立てることができた。

「5 地域に根ざした特色ある取組の推進」では、小中との連携、地域との連携、管内中学校との協力体制強化を図った。五木東小学校、五木中学校との合同事業を実施し、五木分校ならではの取組を行うことで、異年齢交流や大人数での集団活動を体験させることができた。特に、五木村保・小・中・高合同大運動会では、当番校としての役割を果たし、生徒は、最上級生徒としての自覚、責任感、リーダーシップに繋がる主体的な活動を行うことができた。また、五木村駅伝大会や各種祭等の行事への参加、地域ボランティア活動、あいさつ運動等では、生徒会が中心となって、五木村に関わり地域に貢献できる行事を推進することができた。特色のある取組としては、今年は、公共交通機関のみを利用する1・2年合同修学旅行を実施し、貴重な体験学習となった。また、事前研修や修学旅行では生徒の主体的で活発な活動を見ることができた。昨年度から毎月担当職員が管内中学校への訪問を行い、五木分校の広報を行うと共に、相互理解と良好な協力関係を保つことができている。

3 自己評価総括表

全体的にみて、掲げた目標を概ね達成することができた。いじめ、問題行動、不祥事は、0を維持できた。今後も継続させたい。数値目標として実施回数を掲げた項目は全て実施できた。また、数値目標として生徒の達成率を掲げた項目でもほぼ目標値に近い成果を上げることができた。

6 次年度への課題・改善方策

(1) 「入学生徒数の増加」

<改善方策>

- ・学習指導の充実と進路指導の徹底
- ・五木村内の小学校、中学校との連携強化と合同行事の充実
- ・広報活動（ホームページ、分校ニュース等）の充実
- ・管内中学校との協力関係の強化（中学校訪問による情報交換）
- ・体験入学・学校説明会の充実

(2) 「基礎学力の充実」

<改善方策>

- ・授業の充実（個に応じた指導の徹底、興味・関心、意欲を引き出す授業の実践）
- ・学校設定科目「ステップアップ」の充実（上位の段の設定、個別指導の徹底）
- ・学習課題の工夫と改善（個の進路希望に応じた学習指導）

(3) 「キャリア教育の充実」

<改善方策>

- ・各学年の応じたキャリア教育の実践（ライフプランニング授業・インターンシップ等の充実）
- ・「体験学習」の充実（主体性、達成感・自己成就感、自己肯定感の醸成）
- ・個に応じた進路指導の充実（個別面談・個別指導の充実、自己表現力の育成）